

1. 日 時 平成25年5月28日(火) 15:00～15:50
2. 開催場所 市役所本庁舎2階 第4委員会室
3. 出席委員名(敬称略)

役職	氏名	出欠
委員(東北福祉大学教授)	阿部 一彦	×
委員(宮城教育大学准教授)	木下 英俊	×
委員(宮城学院大学教授)	白木 悦子	○
委員(仙台大学教授)	仲野 隆士	○
委員(東北大学准教授)	藤本 敏彦	×
委員(東北学院大学准教授)	松原 悟	○
委員(仙台市スポーツ少年団本部長)	安中 俊作	×
委員(YOKO, INADA スポーツ射撃クラブ)	稲田 容子	○
委員(仙台市体育協会理事長)	渋谷 光保	○
委員(仙台市レクリエーション協会事務局長)	黒田スミ子	○
委員(みやぎ障害者陸上競技協会理事)	中嶋嘉津子	○
委員(仙台市学区民体育振興会理事)	久水 敏司	○
委員(仙台市スポーツ推進委員協議会会長)	平塚 和彦	○
委員(仙台市議会議員)	鈴木 勇治	○
委員(仙台市中学校体育連盟副会長)	朝間 康子	○
委員(仙台市小学校教育研究会体育部会会長)	郡山 孝幸	○
委員(ベガルタボランティアクラブ総務部長)	加藤 茂子	○
委員(東北電力㈱広報・地域交流部副部長)	二階堂宏樹	○
委員(NPO 法人キューオーエル理事長)	横山 英子	×

4. 説明に出席した者の職・氏名

市民局長	渡邊 晃
市民局次長兼文化スポーツ部長	武田 均
スポーツ振興課長	佐藤 康行
スポーツ振興課主幹兼企画係長	奥山 健一
スポーツ振興課事業係長	大浦 健志
スポーツ振興課主任	早坂 正宏
スポーツ振興課主事	佐藤 沙織

## 5. 会議の経過

(1) 開 会

(2) 会長挨拶

(3) 局長挨拶

(事務局紹介：奥山主幹)

(4) 議事及び報告事項の内容

議事進行役：平塚会長

会議録署名委員の指名：稲田委員

**平塚会長** 報告事項について事務局より説明願う。

**事務局** それでは、ご報告させていただく。

〔事務局報告〕・・・報告資料1～2

(1) 平成25年度主要事業について

(2) 平成25年度補助金の交付について

**平塚会長** ただいまの報告について、ご意見、ご質問等はあるか。

〔意見なし〕

**平塚会長** 本日の議事「仙台市スポーツ賞について」は、昨年12月21日の審議会において、委員よりご意見をいただいたもので、今回改めて事務局よりその内容をまとめた上で議題に上げさせていただいた。はじめに配付資料等に関して事務局より説明願う。

**事務局** 今回提案した議題については、前回の審議会におけるスポーツ賞選考の中で、鈴木委員より特に功労賞についてご意見をいただいていた。

スポーツ指導等により長らく地域を支えていただいている方に対する表彰のあり方については、スポーツ推進計画にある「ささえる」という考え方から、今後どのように考えていくのか、課題にさせていただいたところである。

改めてスポーツ賞等におけるこれまでの経過等説明させていただいた上で、委員の皆様のご意見を頂戴したい。

(資料に沿って現在のスポーツ賞について説明する。資料3-1～3)

スポーツ賞の表彰については、例年2月上旬、各スポーツ関係団体への照会等は11月ころより予定している。

仙台市スポーツ賞については、平成4年から始まり、現在のスポーツ賞の骨格が出来上がったのは、平成15年のこの要綱に基づくものである。その後いくつかの変遷、変化を経て現在のスポーツ大賞から栄光賞・優秀賞・奨

励賞・功労賞の種別に細分化したのは平成18年からである。

功労賞について、当初の趣旨としては、以前の計画であった「せんだいスポーツ元気プラン」の中の「する・みる・ささえる」の「ささえる」について、多くの市民の方に知っていただきたいという状況を踏まえ、「ささえる」活動をされている方々の功績を讃え、それを顕彰する。そういったものをスポーツ賞に盛り込むことで「ささえる」スポーツの価値を広く市民の皆さんにお伝えし、スポーツの普及を図りたいという狙いから「スポーツ功労賞」を設けたところである。また、その運用に関する細目を定めており、その細目を踏まえて、これまでも功労賞の中で個人・団体を表彰している。（資料4の一覧の説明）

一方、他都市の状況としては、資料にはしていないが、参考までに説明する。仙台市と同様に功労賞を設けている政令市もいくつかあるようだ。

福岡市の「スポーツ振興奨励賞」は、審議会のような場で議論というよりは、各区の区長より推薦のあった方々を選考するとのことであり、歴史的経緯の中で各区ごとに独自の推薦基準があるとのことであった。

ある区では、活動年数・年齢・役職等を細かく点数化して選考している区もある。また、区内の学区民体育振興会、体育協会等のような組織に推薦を依頼している区もあると聞いた。

また、千葉市の「スポーツ功労者表彰」は、対象団体ごとにある程度人数を限定しているようだ。例えば、千葉市体育協会であれば、10年以上経験している方の中から2人、3人など、人数をある程度決めて推薦してもらい市として表彰しているようだ。

併せて、スポーツ賞以外の各団体の内部表彰規程も参考までに資料として用意した。（資料5～9）それぞれの団体の中でもこれまで表彰されてきた経緯がある。

以上、本日配付の資料ならびにこれまでの表彰の経緯もあわせて説明させていただいた。

**平塚会長** 本日の議事として、スポーツ賞について議論いただくが、今日は功労賞に絞ってご意見をいただきたいと思うがいかがか。

〔異議なし〕の声あり

では、まずは資料を確認する時間を設けたいと思う。そのうえで、事務局の説明も踏まえてご意見をいただきたい。

**仲野委員** スポーツ功労賞を新設したとのことだが、これまでに、そのほかを変更した点があったら詳しく聞きたい。

**事務局** 細分化される前については、平成10年にスポーツ大賞を設け、その後平

成18年に功労賞を新たに新設したものである。

**平塚会長** スポーツ賞については、エントリーがあった段階で審議会でご審議いただくことになるが、さしあたって前回の会議の中で功労賞をもう少し広げてというご意見があったため提案させていただいた。

**久水委員** 過去の表彰者を見ると、各学区で活躍している人から市全体で活躍している人へとだんだん広がっているように見えるが、そもそも功労賞というのは各団体の中でも表彰規程があると思う。学区や区あたりまではある程度表彰できると思うが、市全体の中での活動について、各団体からどのように推薦をいただくかというところが一番難しいと見受けられる。

これまでの受賞者を見ると、大きな大会で活躍された方はそれなりに出てくるかと思うが、スポーツ推進委員であっても学区体振であっても20年以上地域で活動している方もいる。そういう中からいかにして拾いあげていくか考えていかないと、各団体の表彰に比べ、市の表彰となるとかなり重い意味を持つものになると思う。そこをうまく細分化できればいいと思うが。

**事務局** 千葉市や福岡市についても、審議会等の場に上がってくる前に、すでに区毎に基準を細かく決めており、そこから上がってきたものを市として表彰している。または、各団体を決め、基準も決めてもらった上で人数を割り振り、そこから上がってきたものを承認するといったものである。審議会等の場で横並びの基準を決めるというのはなかなか難しいようだ。各団体ごと、年数・功績・人柄等、判断基準は違うと思われるので、やはり横並びの基準を設けることは難しいだろう。

仮に、市として表彰するとなれば、配分の調整、人数を審議会で決めた上で、やはり各団体等で整理していただくという作業が出てくるのではないか。他の市に関しても、学区体振などでの表彰がないからなのか、あっても重ねて行っているのかまでは調査していないが、いずれにしてもやるとなれば、各団体に基準の整備等をお願いすることになるだろう。

**平塚会長** 久水委員よりスポーツ推進委員の話があったが、推進委員は組織内で市連合会の表彰があり、県の表彰があり、東北、全国の表彰、文科省大臣の表彰等それぞれの基準がある。

スポーツ賞については、スタートした原点として、市民に元気を与えたアスリートを表彰するというものだったと思うが、その後、市として、「ささえる」の観点から功労賞を設けたと解釈している。各組織から逆提案いただいて審議会でご意見をいただくというのもひとつの方法だと思う。

**事務局** 各団体にも基準はあると思うが、その基準にはないような判断もあるのかと思うので、そういったところも踏まえて推薦いただくというのであれば、

改めて整理できたものを集めて審議会で横並びにして検討することは可能だと思う。

**平塚会長** 例えば、体育振興会などでは、その組織で活躍された方について、市政功労者という表彰の分野もある。

そんなことも踏まえた上で、そのほか意見はあるか。特にこの場で意見がなければ、従来どおり、功労賞についても過去の表彰暦に準じて各団体に推薦いただき、この審議会で図るというようなとりまとめでいかがか。

〔異議なし〕の声あり

それでは、功労賞についてはその方向で参りたいと思う。

予定されていた議事・報告事項は終了するが、そのほか委員の皆さんから何かあるか。

〔意見なし〕

なければ、本日の審議を終了とする。

(6) その他

(7) 閉 会